

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農業工学部食料科学技術学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Basic food biochemistry	ITP240	3	日本で習った生化学の知識が役立つ
Food safety and sanitation	ITP322	2	予習が必須。グループでのプレゼンがある。
Halal assurance system	ITP336	2	先生の話をよく聞いたほうがいい。
Indonesian ethnobotany	BIO373	3	テストがすべて記述式

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00		Basic food biochemistry			Halal assurance system		
08:00				Indonesian ethnobotany			
09:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00				Indonesian ethnobotany			
					Food safety and sanitation		
14:00							
15:00							
集中講 義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他			○		
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>金曜日にインドネシア語の授業を受けることができた。単位は貰えないが役に立つ。</p> <p>また、履修してない授業のフィールドトリップも頼んだら参加させてもらえた。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他			○		
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舍の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について			○		
・休暇を利用した課外活動への参加				○	
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			○		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応			○		
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>最後の方は寮から引っ越す学生が多かった。</p> <p>体調を崩した時は、ICO に連絡だけして、バディと病院に行った。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

私は Basic food biochemistry、Food safety and sanitation、Halal assurance system、Indonesian ethnobotany の 4 つの授業を履修した。

Basic food biochemistry は日本の基礎生化学等で学習した内容が多く、いい復習になった。また、英語での用語を知ることができた。

Food safety and sanitation では、食品衛生学の授業ですでに学習していた食中毒菌などのほかに、食品の製造に使われる・使われた水の水質の検査方法・浄化方法、洗剤の種類・メカニズム、食品中の汚染物質、衛生的な建物・工場など幅広く食品の衛生や安全について学ぶことができた。授業の課題のために、食品を実際に製造・販売している場所で調査の結果あまり基準を満たしていないところが多いのが面白かった。

Halal assurance system では、まずは基本的なハラール・ハラームの考え方を学んだ。その後、実際の食品製造ではどのようなものがハラールではない可能性があるかということを知り、最終的にはグループのメンバーと一緒にインドネシアのハラール認証の書類の作成をした。

Indonesian ethnobotany は、基本的な植物の分類や構造等を学んでから、インドネシアの伝統的な農業、食べ物、薬、道具について勉強した。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

IPB で授業を受けるにあたって工夫した点は、必ず授業の資料をもらっていたこと。IPB にもドリームキャンパスのようなものがあり、そこから資料を入手出来ることも多いが、そうでないときもある。先生の連絡先を聞いたり、自分のメールアドレス等を伝えたりして資料を送ってもらっていた。

反省点は、グループでの活動に積極的に参加できなかったこと。グループ課題をするときは、ラインやグーグルドライブを使いオンラインですることが多かった。ラインでの会話でインドネシア語を使っていると参加をあきらめてしまった。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

以前より色々なことに対しておおらかに考えられるようになった。現地の学生が「インドネシア人は時間にルーズだから、希望の時間より早めに伝えるようにしている」と話していたりするのを聞いて、その土地に合わせたやり方があるということを知った。違いに文句をつけるのではなく柔軟に対応出来る人になりたいと思った。また、同じムスリムでも食品の表示をすごく気にする人・そうでもない人、ヒジャブをいつもしている人・お出かけの時はしないといっている人など考え方が同じではないところが面白いと思った。自分の思い込みではなく、実際に接してみても個人の意見をきちんと聞くことが大切だと感じた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

ハラールに関する授業を受けたり穆斯林と食事をしたりすることによって、よりハラールに対する興味がわいた。授業ではなんとなくしか理解できない部分があったので、今は日本語で書かれたハラールの本を読んでいる。今後Muslimの友達と食事するときは授業で得た知識や友達から聞いたことを役立てることができたらいいと思う。

留学中にせっかく覚えたインドネシア語は忘れないようにしたい。今も、今年日本に留学に来る友達とやり取りをするとき、お互いに言語を教えあったりしている。少しずつ知っている表現を増やせたらいいなと思っている。出来たらまた留学したい。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

サマーコース等でお世話になっていたり、茨大の卒業生の先生がいたり茨大との繋がりが強い点。今年から派遣の大学だとトラブルが多そうなイメージがあるが、IPB はなにかと安心感があった。

また、寮が一人部屋な点もよかった。ほかの派遣先大学だと2～4人部屋の寮が多いと聞いた。さらに、洗濯や掃除のサービスがあるのもありがたかった。それと寮に来る猫たちがかわいくて癒される。寮の隣に診療所があり体調不良の際も安心。

ICO が留学生向けのインドネシア講座を開いてくれたのがよかった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

意外と何とかなるのでそんなに身構えなくても大丈夫。思っていたより空き時間が多いので、その時間を有効に使えばよかったなと思っている。受け身じゃなくて積極的に活動した方が絶対楽しいと思うので、遠慮せずに自分からもっといろいろな行動すればよかった。時間が合わず参加できなかったけれどサークルとかに入るのもいいと思う。ITP の授業は座学が多いが、フィールドトリップや実習があるものも選択すると現地の学生と交流する機会が増えたり面白いと思う。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農業工学部食生命技術学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Basic Food Biochemistry	ITP240	3	授業時間が長いので集中力が必要。
Food Safety and Sanitation	ITP322	2	プレゼンとディスカッション多めなので要準備。
Halal Assurance System	ITP336	2	食品製造と認証の法体制を学ぶ。新鮮。
Food Packaging and Storage Technology	ITP431	2	食品包装について学ぶ。難しめ。
Indonesian Ethnobotany	BIO373	3	field trip 多め。専門外なので大変だった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	火	水	木	金
07:00～	Basic Food Biochemistry 7:00～9:30			Halal Assurance System 7:00～8:30
07:30～				
08:00～		Food Packaging and Storage 8:00～9:40		
08:30～			Indonesian Ethnobotany 8:30～10:00	
09:00				
09:30～				
10:00～				
10:30～				
11:00～				
11:30～				
12:00～				
12:30～				
13:00～			Indonesian Ethnobotany(実習) 13:00～	Food Safety and Sanitation 13:30～15:10
13:30～				
14:00～				
14:30～				
15:00～				

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>他の学部の授業を履修している留学生の話を聞いていると、私の所属していた ITP（農業工学部）は IPB のなかでも英語ができる学部であるように思えた。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について				○	
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			○		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応			○		
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>ジャカルタはもちろんボゴールにも遊べる場所があるので娯楽には困らなかった。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

Halal Assurance System では食品製造とハラール認証の仕組みについて学んだ。ここでの食品製造というのは日本で学んだ食品製造学や食品化学に近かったが、この授業ではさらにイスラムにおいて NG な原料に対しての注意点や代替的な食品の製造法などかなり深い内容を学べた。

Food Safety and Sanitation では食品を汚染する微生物や化学物質、さらには洗剤の活性や最新の洗浄技術、インドネシアの飲食店の衛生面での問題点などを学んだ。食品の危害要因は日本で学んだ食品衛生学などに近かったが熱帯のインドネシアでは細菌叢が異なるため日本では学ばなかった危害要因や事例を学んだ。洗剤の活性や洗浄技術では化学の知識が必要。さらに洗浄（除菌）する相手が食品でないため様々なアプローチがとられており、その原理を学んだ。

Indonesian Ethnobotany ではインドネシアに特有の植物の役割と利用を生態学的な観点から学んだ。また基礎知識として植物の分類や解剖、代謝物なども学んだ。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

IPB は教務ポータルシステムが優れており、生徒はすべての授業資料だけでなく付随している参考資料をいつでもダウンロードできる。そのため自分の専門外のトピックが次回の授業の範囲内の時は積極的に予習した。

最初の週に授業資料がすべて公開されるため授業後半では資料が変更することもあるのでその際は現地学生や授業担当の先生から資料を頂くのだが先生方は総じて返信が遅いので早めに連絡を入れる。

レポートの内容や締め切りは口頭で説明されることもあり、勘違いや聞き逃すこともあるので一緒に授業を受けている現地学生に確認をとる。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

インドネシアは 9 割がイスラム教徒であるが信仰の度合いは個人の価値観や家庭環境、年代などによって大きく異なるのだと思った。例えば食事のシーンでは私の世話を焼いてくれたインドネシアがハラールのグレーな食品(醤油やカレーなど)を食べたりする一方、本当は食べたいが絶対に食べられないと残念がる教徒もいる。

また、価値観が異なるのはインドネシア人だけでなくほかの国から留学に来ている生徒にもいえる。例えばフランス人の一人はヴィーガンであり牛、鳥のみならず乳製品の類も口にしなかった（消費しなかった）。留学生担当の先生や現地学生はそのような生徒にも配慮しており、普段はムスリムが気を使われる立場だからこそ異なる文化や価値観へのお互いの尊重に感動した。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

留学中はもちろん英語を使ってコミュニケーションをとることが多かったが、大学の敷地外では英語が通じることはまれなのでカタコトのインドネシア語やボディランゲージで意思疎通をはかることが多々あった。これらの経験は英語力の向上のみならず社会に出てから大事になるコミュニケーション能力の発展にもつながるだろうと思った。

またインドネシアのムスリムというのがどのようなイスラム教徒なのか、インドネシアの国民性も含めて実際の触れ合いを通して感じ取れた。例えば自分がグローバルな仕事をするとして、文化や価値観への理解力は自身の判断の助けになるだろうと確信している。

さらに 2019 年のインドネシアは急速に開発が進んでいる国の一つである。留学中は首都の移転決定やデモなど急速ゆえの不安定な出来事があったが、これらをインドネシア国内でリアルタイムに見聞きし体験できたこと（デモは参加してないが）は歴史的にみて貴重な体験であったと思える。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

IPB の良いところといえばやはり立地の良さであると思う。ボゴールから首都ジャカルタまで 50 km 始発電車一本でさらには日本円にして 50 円程度で乗っていける。実はこの安さは世界一ひどいといわれるジャカルタ・ボゴール間の交通渋滞を緩和するためであり、そのくらい交通渋滞がひどい。ジャカルタまで遊びに行くのもよいがボゴールは避暑地としての側面がありおもに東ボゴールはリゾート地など娯楽が豊富であり暇を持て余すことはほぼないとおもわれる。

学校としてもインドネシア国内でトップレベルの大学であり英語での授業はしっかりしている。英語力を鍛えるつもりが、授業がインドネシア語ばかりなのでうっかりインドネシア語をマスターしてしまったなんてことはないだろう。（それはそれで良いかもしれないが）またトップレベルの学校であるので日本各地だけでなく世界中から留学生が来ているのも魅力。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

月並みなアドバイスはほかでも見る機会があるとおもうのでここでは主観的なインドネシアライフハックを紹介させてもらう。

- 1、結局 IPB に留学していた日本人は誰も実行しなかったようだがジャカルタに事業所をかまえる日系企業にインターンすることができる。（頻度や期間は自身での交渉となる）
- 2、歌や楽器（ウクレレ）、ダンスができると盛り上がるので良い。音楽大好きインドネシア人。
- 3、インスタグラムの扱いに慣れておくのは必須。
- 4、交通渋滞によりのどを悪くすることがあるので龍角散があると良い。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



大学近くのレストラン、topi danau。大量のバイクと席が半分野外といったインドネシアらしいスタイル



実習でボゴール市内の植物園にいき、jamu といわれる生薬を飲んだ。

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019 年 8 月～1 2 月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農業工学部食糧科学技術学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Basic Food Biochemistry	ITP240	3	進度が非常に早く、量が多い。非常に難しい。
Food Safety and Sanitation	ITP322	2	毎週グループ課題が発表があり、大変だった。
Characteristics of Food Materials	ITP332	3	内容は難しくないがテストは大変だった。
Halal Assurance System	ITP336	2	講義は分かりやすい、グループ課題・発表有り。
Food Additives	ITP410	2	講義は分かりやすい、グループ課題が多い。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00		Basic Food Biochemistry	Food Additives		Halal		
08:40					Assurance System		
09:30				Characteristics of Food Materials			
10:00							
11:00							
12:00							
13:30					Food Safety and Sanitation		
14:00							
15:10							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
集 中 講 義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			○		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

自分は上記の通り 5 科目を履修した。

Basic Food Biochemistry では基礎的な生化学を学んだ。授業はすべて講義だった。一般化学・基礎生化学・酵素化学・代謝生化学の内容を含んでおり、進度が非常に早く学習量も多く非常に難しかった。中間試験前に一度グループで課題を作成した。

Food Additives では食品添加物の種類、機能、安全性について学んだ。食品保蔵学・食品製造学の内容を含んでいた。授業は前半に講義を行い、後半にグループで学んだことについて発表を行うという形式で行われた。

Characteristics of Food Materials ではインドネシアの穀物や野菜、肉や魚介類などの特徴について学んだ。食品化学・畜産物科学の内容を含んでいた。授業はほぼ講義でときどきグループ活動が行われた。

Halal Assurance System ではハラール認証システムの仕組みや考え方、イスラム教について学んだ。授業はほぼ講義で、ときどきグループ活動が行われた。

Food Safety and Sanitation ではインドネシアの食品工場などでの衛生規範について学んだ。HACCP 概論・食品衛生学の内容を含んでいた。授業は時々講義でほとんどグループ活動と発表だった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

自分は ITP から 5 科目 12 単位を履修した。これは自分が食品系の講義を履修したいと考えていたのと昨年サマーコースでボゴール農科大に留学して現地の熱帯植物について体験学習をしていて、今回は違ったものを学びたいと考えていたためである。海外で長期間講義を受ける経験がなかったので負担を考えて実習のある講義を取らなかった。

自分の学びたかった食品系の科目を多く選択することができたのは良かった一方、熱帯植物などの科目や実習をもっと選択するべきだったと反省している。食品系の授業は内容が日本の講義と似たようなものが多かった。生物系の科目や実習のある科目を取れば、ボゴール農科大だからこその講義をより体験できたかもしれないと考えた。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

自分はインドネシアへの留学で現地学生や留学生とともに学習や課外活動に取り組んだ。また、11 月からの 2 か月間は IPB の合唱団 Agria Swara に所属し、IPB の新入生とともに 12 月 15 日の合唱の発表会 Malam Inagurasi に参加した。そして自分はこれらの生活の中で特に行動力や積極性を得ることができた。現地学生は上手下手に関わらずとにかくやってみようという行動力や自分の個性や強みを生かして役割分担したり、授業内では分からない点については分からないことを伝えて質問したりする積極性を持っていた。そこから自分は彼らに感化され、合唱団では自分にできることを見つけて実行しようと考え、自分の合唱に関する知識や経験から技術面で努力・貢献することができた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

自分は今回の留学で特に英語での学習経験と積極性・行動力が得られたと思う。

日本では英語の授業でしか英語を使う機会がなかったが、留学中は全ての場面で英語を利用しており、英語技能を高めることができた。この経験を今後の研究活動や就職活動で活かしていきたいと考えている。具体的には卒業論文制作の際に英語論文を読む際に英語技能を活かす、また就職活動では今回の留学経験や語学力向上をアピールして就職の選択肢を広げていきたいと考えている。

また、合唱団で多くの人が自分にできることを見つけて役割分担をしている姿を見たり、新入生内のグループのパートリーダーとして技術面で努力・貢献をしたりして積極性や行動力が得られたと考えている。全体を見て自分にできることややるべきことを探す、まず挑戦してみるという心持ちを常に持って研究活動、就職活動やその後に役立てていきたいと考えている。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

履修できる科目の選択肢が広い点。食品系の科目以外にも農業系や生物系などの様々な科目を履修することが可能で、自分の興味に合った科目を選択して履修することや留学生同士でお互いの科目について話を聞くことができた。

大学構内の寮に住めた点。最初の一か月別のアパートに住んでいたが、そこに比べて安全で生活費が安い、教室までの距離が短いなどのメリットがあった。

ICO やバディの対応が良かった点。現地の銀行で口座を作る際に証明書を発行してくれたり、現地学生とインドネシア語を学ぶプログラムを開いてくれたりした。留学生一人一人に現地学生がバディとしてついてくれて各種手続きを手伝ってくれたり、困った際に相談に乗ってくれたりした。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

留学前にクレジットカードが海外で利用できるかどうかを確認すること。自分はクレジットカードを2つ持って行っていたが、トラブルで両方使えなくなり、現地の銀行の口座を作ることになってしまった。出国前に海外キャッシングの可否、暗証番号の確認は必ず行うべき。

日記をつけること。インドネシアで感じたことを忘れないように書き留めておくと、後でその時の自分の思いを振り返りやすくなると思う。

お腹が緩いなどの自覚がある場合は粉末状の食物繊維やシリアルなどを持参すると良いかもしれない。現地では最初のころ、どこで野菜を取ったらいいかわからないためにビタミンや食物繊維が不足する。自分は中間試験前に食物繊維不足で下痢に悩まされた。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



現地学生の誕生日パーティーにて



IPB の合唱団 Agria Swara のイベント、Malam Inagurasi にて

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	地域総合農学科	コース	農業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農学部農学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Seed science and technology	AGH250	3	実験は毎回レポートと実験書の提出が必要だった。
Plant in the landscape	ARL320	3	休日に実習があった。
Entrepreneurial experience	AGB421	3	毎回プレゼンだった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00				Plant in the landscape			
08:00			Entrepreneurial experience				
09:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00	Seed science and technology (lab)	Seed science and technology					
14:00							
15:00							
16:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

Seed science and technology では、種の生理現象から、発芽様式、貯蔵、流通など、植物の種に絞って詳しく教わった。講義はオムニバス形式で、毎回先生が変わり、それぞれのテーマに沿って話を聞いた。この授業は実験と講義がセットになっていて、授業前半で学ぶ種についての実験を毎週行った。特に seed vigor と seed viability については、授業で何度も触れられ、実験もしっかり行った。Plant in the landscape は、道端や公園や街に生えている植物たちがどのような役割を果たしているのかを学んだ。話を聞くだけでなく、実際にボゴール植物園などへフィールドワークに出かけ、植物を観察することもあった。最終回では、実際に自分たちで講演や家などにどのような植物を植えるべきかを考え、プレゼンを行った。Entrepreneurial experience では、自分たちで客や販売地域を決めたうえで、商品を開発してそれを売った。講義はなく、プレゼンで進捗を報告し、都度アドバイスをもらうというものだった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

私はとにかく言葉を知らなかったのも、とりあえず聞き取れて知らない単語はすべてメモを取って、後から調べるようにしていた。聞き取ることすらできなかったものについては、ほかの日本人学生に尋ねた。言葉ばかりを気にしすぎたせいで、授業内容についてはあまり頭に入らなかったのも、テスト前に苦労した。もっと話の大まかな流れを掴んで、どうしてもいい単語などは補足のために使うべきだった。また、朝 7 時からの授業は、先生が時間通りに来ないので、それを見越して少し遅めに行った。朝の時間が有効に使えてよかった。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

毎朝 4 時ごろにアザーンが爆音で流れてくる。初めは、それで目が覚めてしまい睡眠不足でイライラしていた。しかし、イスラム教の人の生活を見てからは、うるさいとは思わなくなった。そして、インドネシアは島国なので、顔も肌の色も違う人たちがたくさんいて、同じところで生活していた。お互い、主張すべきことははっきり主張し、それでいて干渉はしすぎていないようだった。このことから、私は、いろいろな人間がいることを知り、相手の価値観を受け入れ、そのうえで主張すべきところはハッキリするという力が身についた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

この留学で、より他人とコミュニケーションを取ろうと思えるようになった。インドネシア人と英語で話すときは、お互いが母国語ではないので、何度か意思疎通がうまくできていないことがあった。それを減らすために、積極的にコミュニケーションをとる必要があった。それなので、会話をするのを億劫に思わなくなった。また、なんでも食べられるようになった。良かれと思って勧めてもらったものを一口も食べずに残すわけにはいけないので、なんでも食べてみるようにしていたところ、なんでも食べられるようになった。これらの経験を活かして、もっといろいろな人と積極的に会話をして、自分の知見を広めたい。自分の思ったことを正確に伝えられるようにしたい。そして、なんでもとりあえず挑戦してみるようにして、最初からやらないということは避けたい。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

国際寮は、全室 Wi-Fi とエアコンがついていて、洗濯や掃除もやってくれた。なので、そういった家事全般にすることなく、学業に専念できた。また、具合が悪くなったときは診療所が国際寮の隣にあって、簡単な処置をしてもらえらしい。寮には共同キッチンがついていて、調理ができた。授業は、どの授業も先生が丁寧に教えてくれた。授業中にわからなかったところは、授業後に直接聞きに行ったり、メールで尋ねたりもした。その度に、しっかり話をしてくれた。また、学食もよかった。朝早くから夕方くらいまで営業していて、リーズナブルで量も多くおいしかった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

サプタという学校の真ん中にある食堂の ayam bakar はめっちゃめっちゃおいしいのでぜひ試してみてほしい。また、好き嫌いせずに、いろいろなことに挑戦してほしい。特に食べ物に関しては、チャレンジしてほしい。おなかを壊したり、風邪をひいたりしたら、だれを頼っても良い。我慢しすぎもよくない。自己を主張する必要があるが、わがままになりすぎてはいけない。大人な対応を心掛けるべき。自分の言動が日本人や学校のイメージに直接つながることを頭に入れておいてほしい。帰りは寄り道せずに安全に帰ること。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）

